



関ロータークラブ

URL <http://www.seki-rc.org/> E-mail seki-rc@abelia.ocn.ne.jp
TEL (0575)22-9332 FAX(0575)22-9977

RID2630 ROTARY CLUB OF SEKI ■会長 藤井 淳 ■副会長 古田貴巳 ■幹事 三輪雄彦



2015~16 年度 国際ロータリーテーマ
「世界へのプレゼントになろう (Be a gift to the world)」
RI 会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン
2015~16 年度 関ロータークラブテーマ
「 ONE FOR ALL , ALL FOR ONE 」 第 50 代会長 藤井 淳

第 2391 号

平成 27 年 10 月 27 日 (火)

前例会の記録 第 2390 回 10 月 21 日(火)18:30

「電気の特性と電力システム改革の動向について」
中部電力関営業所 所長 田中達彦様

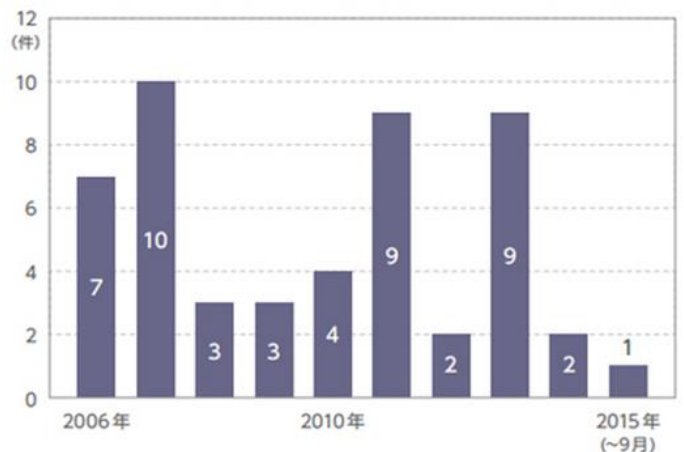
- ◆開会点鐘
- ◆「それでこそロータリー」斉唱
- ◆会長挨拶 藤井淳



千葉県は 9 月 11 日、県北東部に住む 0 歳の男児が、日本脳炎を発症したことを公表しました。千葉県内での発症は 1990 年以來の 25 年ぶりのことです。男児は 8 月 18 日に発熱を生じ、近医を受診。その後、21 日に意識障

害と脳神経麻痺を呈して、旭市内の病院に入院し、髄液検査から日本脳炎ウイルスへの感染が確認されました。患児に渡航歴はなく、蚊の刺咬歴はあったものの、現時点ではどこで刺されたかの特定はできていません。日本脳炎ワクチンの標準的な接種期間は 3~4 歳とされていることもあり、同患児は日本脳炎ワクチンを接種していませんでした。日本脳炎は、日本脳炎ウイルスに感染した豚などから蚊を介して同ウイルスに感染し、発症します。国立感染症研究所から報告されたブタの日本脳炎抗体保有状況を調査した結果では、千葉県は 8 月時点では 0% だったが、9 月には 50% 未満に増加しており、日本脳炎ウイルスに対する抗体を持つブタが県内にいたことが明らかになっています。千葉県はこの症例報告を受け、肌の露出を控える、虫除け剤を使用するなど、蚊に刺されないように注意喚起をしています。加えて、国立感染症研究所も「それぞれの居住地における日本脳炎に関する情報にも注意し、日本脳炎ウイルスが蔓延あるいは活動していると推測される地域においては、日本脳炎の予

防接種を受けていない者、とくに乳幼児や高齢者は蚊に刺されないようにするなどの注意が必要である」と呼び掛けています。日本における日本脳炎患者の報告数は、1950 年代には小児を中心に年間数千人という記録がありますが、その後減少し続け、最近では年間数件に落ち着いています。しかし、これは日本脳炎ワクチンの普及によって、日本脳炎の発症者が低く抑えられているだけであるという点を忘れてはいけません。下のグラフは日本全国での日本脳炎の発症数です。



少ないですが、毎年数例の発症があります。日本脳炎ウイルスは、世界では、小児を中心に、年間約 5 万人が発症し、およそ 1 万人が死亡しており、公衆衛生学上、最も重要なウイルスの 1 つです。豚は、ウイルスを増幅させる動物であり、日本脳炎に感染したブタが増加していれば、その地域では注意が必要となります。豚間の流行は 6 月より始まり関東以南の多くの県では 10 月までに約 80% 以上の感染率を示し、日本脳炎ウイルスの存在が示されています。豚から人には、ウイルスを保有した蚊を介して感染します。日本では主に、水田など大きな水たまり

に産卵するコガタアカイエカによって媒介されます。この蚊には、夜間活動性で、活動場所は農村部、などの特徴があります。人は終末宿主であり、人から人へのウイルスの伝播はありません。

ワクチン接種が不十分な人が存在

日本脳炎ワクチンが予防の要になるわけですが、日本脳炎ワクチンは標準的な接種時期として1期初回を3歳～4歳で推奨しています。しかし、6カ月以上でも定期接種として接種可能であり、今後は3歳未満でも接種可能である点を説明していかなければならないと考えます。また、2005年にワクチン接種後に重症の急性散在性脳脊髄炎を発症した症例があり、積極的勧奨が差し控えられ接種率が激減するという事態がありました。その後、製造方法の異なるワクチンが開発され、2010年からは積極的勧奨が再開となりました。問題は積極的勧奨が差し控えられた時期に、日本脳炎の予防接種を受ける機会を逃している人が存在する点です。厚生労働省は、「1995～2006年度に生まれた人は、日本脳炎の予防接種が不十分になっている」とし、市町村に確認の上、不足分の接種を受けるよう呼びかけています。日本脳炎の潜伏期間は2週間程度(6～16日)で、感染してもほとんどの人は軽症あるいは無症状に終わります。しかし一部は髄膜炎や脳炎、脊髄炎を発症するが、その発症率は感染者の100～1000人に1人程度とみられています。脳炎の特徴は、(1)急激な発熱と頭痛で発症し、2～3日で39～40℃以上となる、(2)全身の違和感、嘔吐、下痢、髄膜刺激症状等が出現する、(3)その後、意識障害、筋肉硬直、麻痺、けいれんなどが出現する、などです。脳炎症状を起こすと、致死率は18%と高く、また回復しても半数に後遺症が残ってしまいます。皆さんの子供さん、お孫さんで日本脳炎ワクチンを接種していない人がみえないか、一度ご確認されてはいかがでしょうか？

◆委員会報告

◎出席委員会 副委員長 岩倉宏幸

会員47名中 出席20名 出席率 44.45%

◎ニコボックス委員会 委員 大岩寿喜子

会長・副会長・幹事の皆さん・・・2016年から始まる電力自由化についてはすでに水面下で盛り上がってきているようですね。そのあたりの話も楽しみにしております。本日はよろしくお願ひ致します。

堀部、杉浦、後藤の皆さん・・・田中達彦様、いつもお世話になっています。今日は、新しい中部電力についてじっくり聞かせていただきます。ガンバッテ下さい。

酒井泉さん・・・電気屋は日頃、中部電力様には大変お世話になっております。電力が自由化になりますが、一番安定供給をしてくれるのはやはり中部電力さんだと信じております。今晚は、卓話楽しみにしております。

早川、酒井、東谷、堀部、山谷、加藤(浩)、臼田の皆

さん・・・西本さん、19日のIGMホストありがとうございました。美味しい料理を食べながら50周年の事業の話で盛り上がりました。楽しいひと時を提供して下さった西本さんに感謝致します。

高木道彦さん・・・妻にバースデーカードが届きました。ありがとうございました。

◆幹事報告

◎例会変更と休会通知

・可児RC・各務原RC・美濃加茂RC

◆IGMの報告 報告者 臼田龍司

平成27年10月19日(月)18:30より、みね家さんで、IGMが実施されました。ホスト：西本さん、リーダー：堀部さん、ロータリー情報：酒井さんで、出席者は、早川さん、東谷さん、加藤浩二さん、山谷さん、私の、8名で行われました。来年度は50周年という関ロータリークラブにとって、大変記念すべき年となります。その50周年を、成功させたいという気持ちで、ひしひしと感じられるような、「来年度の50周年記念行事を、大成功に導く為に・・・。」というテーマで行われました。記念行事として行われる、安桜山整備事業、記念誌発行、記念式典、記念講演など、今回のIGMに出席した全員が、まるで50周年準備委員会の、委員長になったような、意見が飛び交いました。多少のお酒は入っているものの、皆さんの、関ロータリークラブに対する愛着と、50周年記念に対する、期待が、炎のごとく熱く燃え上がり、数々の貴重な意見や、アイデアが出ていたように思います。私自身は、50周年という記念行事を、少し対岸で見ていたようですが、今回のIGMに出席させていただき、50周年に対する熱い想いが沸いて出てきました。多くの意見が出ましたが、一つ紹介させていただきたいと思います。少しでも、50周年の予算を多く取りたいという、気持ちが現われている提案として、地区補助金の話をお聞かせいただきました。現在の関ロータリークラブの地区補助金の計算によると、来年、237,000円以上の自己資金で、600,000円もの補助金をいただけるということでした。補助金に関して、酒井さんが事前に、現在の関ロータリークラブの地区補助金の計算式を分かりやすくまとめてくださり、書面でいただくことにより、大変理解が深まりました。当日の意見を全てご紹介するには、時間が足りません。具体的な話の内容は、今回のIGMに出席された方々が、それぞれのポジションで、熱い思いや、考えを発揮されることと思います。そして、関ロータリークラブ50周年行事の成功は間違いないと確信しております。最後に、今回のIGMでホストを務めてくださいました、西本さんに心から感謝をいたします。

◆「電気の特性と電力システム改革の動向について」

中部電力関営業所 所長 田中達彦様



本日は貴重な時間をいただきましたので、今後、展開される「電力システム改革」の内容を中心に話を進めてまいります。その前にご存知かとは思いますが「電気の特性」について少し説明をいたします。そも

そも電気はストックできないという特性があります。最近では蓄電池が普及して参りましたが、まだまだ多くの電気をストックすることは出来ません。電力は需要にあった発電量すなわち供給力のバランスをとることで、周波数60ヘルツを適正に維持します。我々の間では需要と供給の「同時同量」という表現を使っております。電力需給は、特に気候等の変動により急激に変化いたします。例えば、猛暑になった場合は需要が増加いたします。その際には需要が発電量を上回り、周波数が低下してしまいます。この状態で更に需要が増加すると周波数も同様に更に低下し、適正な運転が継続できなくなり、発電所内の発電機が連鎖的に停止してしまいます。需給バランスが保てず、ひいては大停電が発生することになります。このようなことがないように、発電量の調整を行っています。最近では、競争原理に基づき、新規参入者すなわち新電力が多くなり、供給力が安定していないこともあります。よって、電力会社は、新電力が供給に支障が発生した場合も同時同量を保つためのバックアップが必要となります。電力会社には供給義務があり、われわれ電力会社は大停電という最悪の事態を招かないよう、安全を第一優先に電力の安定供給を経済的で環境にも優れた状態で実現することが使命であると思っております。それでは、本題の「電力システム改革」について、改革が必要になった経緯と国が目指す改革のポイントをお話します。低廉で安定的な電力供給は「我が国の不変な強み」であると国レベルでの認識でありました。しかし、東日本大震災を境に、大きな疑問をもたらし、更に、低廉で安定的な電力供給を目指すため、改革は進められてきました。目的は3つ、①安定供給の確保②電気料金を最大限抑制③電気利用の選択肢や企業の事業機会を拡大する。です。そして、実現のために、3つの柱が作られ、現在も進行しています。3つの柱①地域を超えた電気のやり取りを拡大する ②電気の小売を全面的に自由化する ③送配電のネットワークを利用しやすくする。になります。第1段階として地域を超えた電気のやり取りを拡大についてです。電力融通については電力会社間でこれまでも実施しておりますが、平成27年4月より広域的運営推進機関が設立されました。広域的運営推進機関とは、各電力会社の供給エリアを超えて、電気をやり取りし

やすくするとともに、災害などで地域的な電力不足が生じた場合に停電を起りにくくするための司令塔となる組織です。全国の需給計画・系統計画を取りまとめ、広域的な送電設備の増強や運用の見直しなどが主な役割です。第2段階は電気販売の自由化についてです。平成28年4月度より、電力の小売り全面自由化が実施されます。電気を使用されるお客さまが、電力会社を含めたすべての小売電気事業者の中から、料金メニューなどにより事業者を選択し、電気の需給契約を取り交わし、使用した分の電気料金を支払います。お客さまは小売電気事業者としか接点がありませんが、その前段で、電力会社や新電力などの発電事業者が発電した電気を「送変電事業者」を介して小売電気事業者が電気を買付けます小売電気事業者から託送料や発電料としてそれぞれの事業者を支払う流れになります。日本では、平成12年からお客さまの電気を使用する規模（契約電力）に応じて、段階的に電力の小売り自由化が実施されてきました。平成28年4月からは一般家庭を含めすべての電気の供給が自由化され、すべてのお客さまが電力会社や料金メニューを自由に選択できるようになります。小売り全面自由化により、期待される効果は、①お客さまニーズに応じたサービスや料金メニューが生まれる ②競争原理が一層導入されることにより、電気料金が最大限抑制できる可能性がある。こととなります。第3段階は発送電分離についてです。法的分離による、発送電部門の中立性を一層確保するために、平成32年を目途に実施されます。発送電部門の中立性を今まで以上に高めるため、現在の「電力会社が発電から送電・配電まですべて責任を持つ発送電一貫体制」を見直し、電力会社の送配電部門を切り離して別会社化する検討が行われております。今回の全面自由化を受け、少しPRをさせていただきます。全面自由化に向けた取組の一つで家庭用分野のWebサイト「カテエネ」の加入拡大を行っています。今後、カテエネを通じて新たなサービス、情報発信をしてまいります。また、同様に「e-暮らし株式会社」などを活用して、電気だけでなく「暮らしのコーディネーター」として取り組んでまいります。最後になりますが、当社の一番の使命は「安全を第一優先に電力の安定供給を経済的で環境にも優れた状態で実現する」ことであります。今後ともよろしくお願いたします。

次例会のご案内 11月7日～8日

「家族旅行・伊勢志摩方面」 担当：親睦委員会

例 会：毎週火曜日 12:30（第3週は水曜日に 18:30）
例会場：岐阜県関市本町6-20 大垣共立銀行関支店2F
事務局：岐阜県関市平和通7-10-25 アメリカ